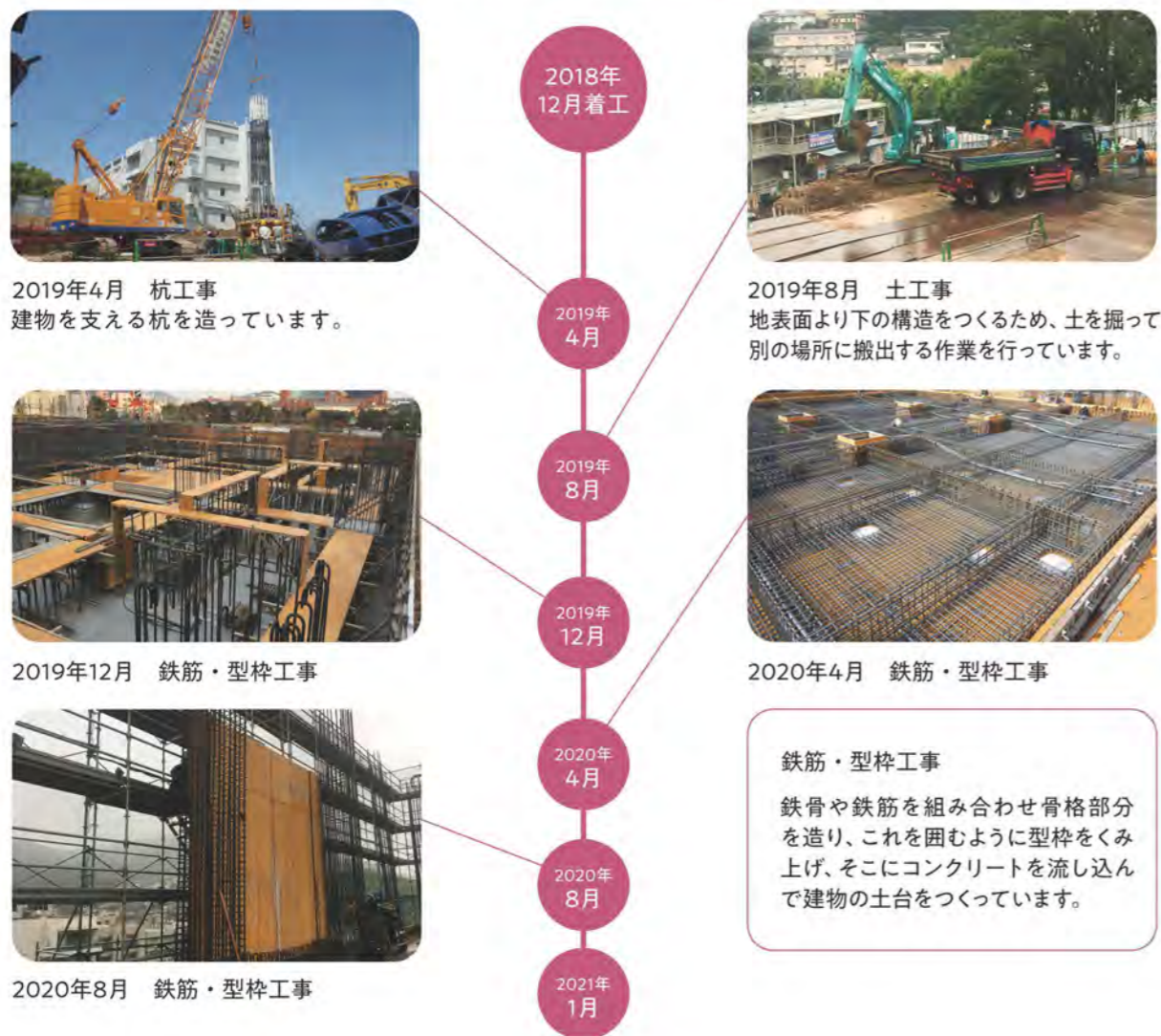
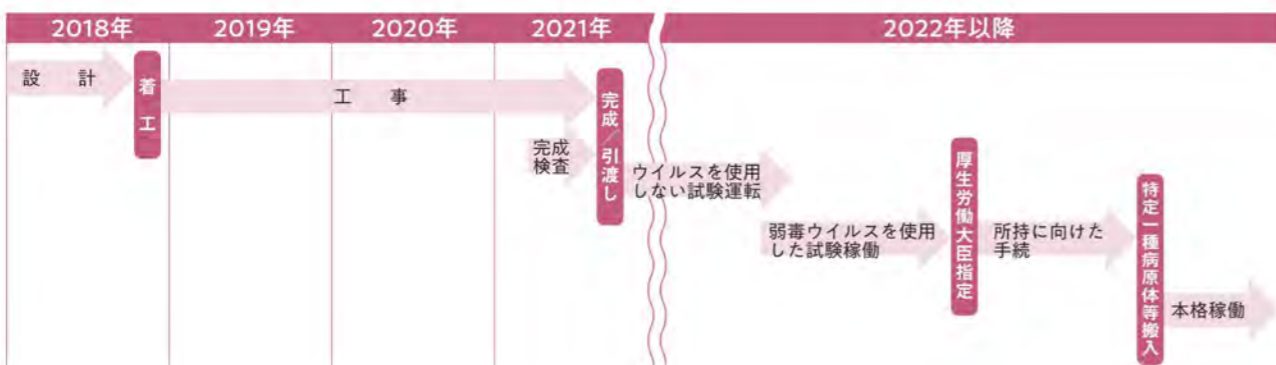


## 工事の進捗



2021年1月 BSL-4施設全景



長崎大学の感染症研究施設の今をお伝えする

# BSL-4 Report

Vol.3  
2021.1.



## 危険度の高い感染症に備える

世界は今、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症のパンデミックに翻弄されています。このように新たに出現する感染症の多くは、野生生物に共生・寄生して存続している微生物がヒトに伝播して引き起こす人獣共通感染症です。1970年代から、地球人口の激増、森林の伐採、灌漑やダム建設等による地球環境の激変によって、野生動物とヒトの生活圏の境界が無くなったために、新たな人獣共通感染症が次々出現しています。さらに、交通網の発達によって、感染症は瞬間に世界に広がります。

自然界には、野生動物に危害を及ぼすことなく存続している未知の微生物が数十万種存在すると推定されています。今後、未知のウイルスがパンデミックを起こす頻度は、ますます高くなるでしょう。その中にはエボラウイルスやSARS-CoV-2より病原性が高いものもあるでしょう。

これまで日本は、BSL-4施設が稼働していなかったために、危険度の高い感染症の診断、予防と治療法の研究を海外の機関に依存する、科学先進国としては恥ずかしい状況にありました。

長崎大学感染症共同研究拠点は、BSL-4施設の設置と稼働を通じて、長崎県、長崎市、ならびに地域住民の皆様の信頼と協力を基に、病原体の研究と、研究に従事する人材の育成を担う拠点を整備・拡充し、日本と世界の安全・安心に寄与してまいります。



2021年1月  
長崎大学感染症共同研究拠点 拠点長  
北海道大学ユニバーシティプロフェッサー  
北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 特別招へい教授 統括  
喜田 宏

BSLとは、バイオセーフティーレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4施設です。

お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学感染症共同研究拠点 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

フリーダイヤル 0120-095-819 より詳しくお知りになりたい場合は、長崎大学感染症共同研究拠点ホームページをご覧ください。

ファックス 095-819-2960 ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>



## 地域連絡協議会とは

BSL-4施設の検討状況に関する情報を地域の皆様にお伝えし、議論を行っていくものです。広く地域住民の皆様からご意見をいただきながら検討を進めるため、「応募の日において20歳以上で長崎市内に在住している方」を対象に毎年、委員を公募しております。



## 大学からのご報告事項

- BSL-4 施設建設工事の状況
- 令和3年度概算要求における経費の計上 (文部科学省)
- 学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定



※大学からのご報告事項について、詳細をダウンロードできます。

令和3年度概算要求における長崎大学のBSL-4施設に関連する経費 (内訳)	23.1億円
研究支援 (研究に必要な設備の整備等)	19.6億円
感染症教育研究拠点の形成に係る人件費等	3.5億円

文部科学省が策定する「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定 (ロードマップ2020)」に「BSL-4施設を中核とした感染症研究拠点の形成」が採択されました。(2020年9月24日付)

## ロードマップ2020とは

ロードマップ2020は日本で最も重要な学術プロジェクトについて、研究者の研究計画と国の学術政策をマッチさせ、優先度を明らかにしようとするものです。「ロードマップ2020」で優先度が認められたプロジェクトは、国による特別な支援が期待されます。



2021年夏に竣工予定のBSL-4施設(実験棟)

## 文部科学省の審議会による評価結果

基本要件(学術的意義、体制等)を満たしているか **a** (3段階の最上位)  
優先度(緊急性、戦略性、社会的支持)があるか **a** (3段階の最上位)

### 優れている点

- ・長崎大学は感染症研究においてこれまで多くの実績を有しており、更なる研究成果の創出が期待できる。
- ・COVID-19及びその他の新興・再興感染症への対応強化の観点からも重要な計画。

### 課題・留意点

- ・国の感染症対策における当施設の位置づけや、運営の在り方について更なる検討が必要。
- ・運営段階においても、地元住民をはじめとした社会・国民の支持を継続的に得ていくよう努める必要。
- ・各大学との連携体制・共同利用体制をより明確にすること。

## 第32回 2020.10.14開催 地域連絡協議会 主なご意見・ご質問

**Q** 竣工後のスケジュールについて教えてください。

**A** BSL-4施設(実験棟)は2021年夏の竣工を目指しておりますが、BSL-4病原体を用いた実験は、竣工後すぐに行えるわけではありません。厚生労働省による審査等を経るまでの間はBSL-4病原体を用いずに施設の試験や実験を行う予定です。安全に関する規則等につきましては、厚生労働省による審査を踏まえて見直しを行うことも想定されるので、計画の進捗状況に応じて、地域連絡協議会等のご相談させていただきたいと考えております。



**Q** 「現状ではエボラの集団感染はアフリカに限定されており、有効なワクチンが承認され、複数の有効な抗ウイルス薬も開発されつつあるので、新型コロナウイルス感染症のような大規模な世界的流行が生じるとは考えにくい」と大学からの説明にあるが、エボラウイルスに対しては既に手立てがあると考えてよろしいのでしょうか。

**A** 有効なワクチンの承認や抗ウイルス薬の開発など、以前に比べると研究は進歩しています。しかし、変異を起こしたエボラウイルスが出てきた場合、既知のものとは異なる種類のウイルスが出てきた場合にそれらが効果的であるという保証はありません。また、すべての感染者に対して効果があるというわけではないため、まだまだ研究開発の必要性は十分にあるという状況です。



**Q** 住民に被害が生じた場合の補償内容について教えてください。

**A** **長崎大学** 万一、住民の方に被害が生じた場合、被害内容に照らして、大学資金と国立大学法人 総合損害保険で補償することを考えております。

**文部科学省** 文科省は厚生労働省と連携し、住民に被害が及ぶような事故が決して発生しないよう、厳重な安全管理に向けた監督、指導、助言等を行って参ります。補償について、関係省庁は、長崎大学が設置主体としてその責任を果たせるよう必要な支援を行います。



**Q** BSL-4施設(実験棟)に隣接して新たに建設される研究棟の工事スケジュール等、自治会に対する説明が不十分だと感じることがあります。

**A** 地域を回って自治会ごとにご説明させていただきたいと思っております。安心して安全な施設をつくり、運営していくために、地域住民の皆様の具体的なお意見をお聞きし、どのような形で行うことが適切かを「地域連絡協議会」において検討していきます。また、幅広くご意見を伺うことに関しては、感染症共同研究拠点ホームページの活用やフリーダイヤルでの対応のほか、公開講座や説明会を通じて、コミュニケーションの促進を図ってまいります。

**Q** BSL-4施設内での実験に関するリスクとその対策について、具体的に教えてください。

**A** 実験を行う上で、重大事故防止のために、実験の全工程についてリスクアセスメントを行いました。これに基づいて、BSL-4施設での実験に最も重要な陽圧防護服の使用の安全管理について今回の地域連絡協議会でご説明させて頂き、今後、実験を行う研究者の健康面や人物面での管理や行った実験についての情報伝達等についても、引き続き地域連絡協議会にてご説明させて頂きます。

